

Junior Global Exchange Program 2025 Report

令和7年度ジュニアグローバル研修事業(ニューカッスル市)実施報告書



令和7年(2025年)11月

目 次

◆事業概要	2
◆事業日程	3
◆活動日誌	5
◆派遣生徒報告	
慶進中学校 アジズ アヒアン ヒサン.....	16
西岐波中学校 石井 琴子	17
西岐波中学校 上田 菜桜	18
川上中学校 大原 和武	19
厚南中学校 海田 智咲	20
神原中学校 正司 葡乃香	21
黒石中学校 兵間 尋	22
常盤中学校 山口 史乃	23
◆引率教諭報告	
宇部市教育委員会 大山 裕子	24
神原中学校教諭 大西 貴子	27
◆資 料	31

◆ 事業概要

1 目的

次代を担う市内の中学生を姉妹都市に派遣することにより、国際的に活躍できる人材を育成し、姉妹都市との交流によって友好親善と相互理解を深める。

2 主催

宇部市、宇部市教育委員会、宇部市・ニューカッスル市姉妹都市友好協会

3 派遣期間

令和7年8月3日(日)～8月13日(水)(11日間)

4 派遣先

オーストラリア ニューサウスウェールズ州 ニューカッスル市

5 派遣生徒及び引率者氏名

中学校	学年	氏 名
慶進中学校	3	アジズ アヒアン ヒサン
西岐波中学校	2	いしい ことこ 石井 琴子
西岐波中学校	3	うえだ な お 上田 菜桜
川上中学校	2	おおはら かずたけ 大原 和武
厚南中学校	2	かいだ ちさき 海田 智咲
神原中学校	3	しょうじ ほ の か 正司 葡乃香
黒石中学校	2	ひょうま じん 兵間 尋
常盤中学校	3	やまぐち し の 山口 史乃

所 属	氏 名
宇部市教育委員会事務局	おおやま ゆうこ 大山 裕子
神原中学校	おおにし たかこ 大西 貴子

◆ 事業日程

月日	曜日	行事		場所・会場
4月24日	木	18:00-20:00	一次選考	宇部市役所 本庁舎棟
5月18日	日	14:00-18:00	二次選考	宇部市役所 本庁舎棟
6月12日	木	18:00-20:00	説明会	宇部市役所 本庁舎棟
6月21日	土	14:00-17:00	出発前研修（第1回）「プレゼン原稿を作ろう」など	宇部市役所 本庁舎棟
7月6日	日	14:00-17:00	出発前研修（第2回）「プレゼン練習」など	宇部市役所 本庁舎棟
7月23日	金	14:00-15:00	壮行会リハーサル	宇部市役所 本庁舎棟
		15:00-16:00	壮行会	
		16:00-16:30	出発前研修（第3回）「派遣中の注意事項」など	
7月31日	木	14:00-17:00	出発前研修（第4回）「英会話ロールプレイ」など	宇部市役所 本庁舎棟
8月3日	日	16:30 山口宇部空港集合 1階 チェックインカウンター 17:45-19:25 山口宇部空港→羽田空港（NH700） 22:45-**** 羽田空港→シドニー空港（NH879）		—
8月4日	月	****-09:25 羽田空港→シドニー空港（NH879） -自治体国際化協会（CLAIR）シドニー事務所及び 日本政府観光局（JNTO）職員によるブリーフィング 15:15-17:49 セントラル駅→ニューカッスル・インターチェンジ駅 到着後、ホストファミリーと合流		シドニー ・ ニューカッスル市
8月5日	火	ピリオド1	歓迎セレモニー・オリエンテーション モーニングティー 小グループに分かれて学生ガイドによる学校案内	メリーウェザー・ハイスクール
		ピリオド2	日本語の授業 教室周辺の宝探し	
		ピリオド3	日本語の授業	
		ピリオド4	科学または体育の授業を選択	
		ピリオド5	ビジュアルアートの授業	
		ピリオド6	日本語の授業	

月日	曜日	行事		場所・会場
8月6日	水	ピリオド 1	ホスト学生と一緒にシビックパークに行き、広島原爆記念日の国旗掲揚式に参加 平和メッセージ 山口史乃さん 終了後、市長室訪問 市長メッセージ送達 上田菜桜さん 宇部市の紹介等をプレゼン	シビックパーク 市長室 メリーウェザーハイスクール
		ピリオド 2		
		ピリオド 3		
		ピリオド 4		
		ピリオド 5	マルチメディア（VR）体験	
		ピリオド 6		
8月7日	木	ピリオド 1	2グループに分かれて食品科学の授業	メリーウェザーハイスクール
		ピリオド 2		
		ピリオド 3	アボリジニ文化体験	
		ピリオド 4		
		ピリオド 5	アウトドアの授業	
		ピリオド 6	音楽の授業	
8月8日	金	ピリオド 1	地理または体育の授業を選択	メリーウェザーハイスクール
		ピリオド 2	日本語の授業	
		ピリオド 3	オーストラリア文化クイズ	
		ピリオド 4	地理または体育の授業（午前中受けていない授業に参加）	
		ピリオド 5	科学の授業	
8月9日	土	グレンロック・ラグーン※1のガイド付きツアー（オプション）		—
8月10日	日	ホストファミリーとの自由な一日		—
8月11日	月	ピリオド 1-4	ホストファミリーの学生と一緒にブラックバットリザーブを訪問	メリーウェザーハイスクール
		ピリオド 5	日本語の授業	
		ピリオド 6	修了式	
8月12日	火	09:21-11:58 ニューカッスル・インターチェンジ駅→セントラル駅 昼食・簡単な市内観光後移動 18:50 シドニー空港到着 20:55-**** シドニー空港→羽田空港（NH880）		シドニー ・ ニューカッスル市
8月13日	水	****-05:45 シドニー空港→羽田空港（NH880） 10:30-12:05 羽田空港→山口宇部空港（NH693）		—
8月18日	月	13:30-17:00	帰国後研修	宇部市役所 本庁舎棟
8月22日	金	14:00-14:50	帰国報告会リハーサル	宇部市役所 市民交流棟 交流ホール
		15:00-16:30	帰国報告会 （姉妹都市短期留学支援の帰国報告会と同時開催）	

※1 ニューカッスル市にあるタスマン海とつながる湖。その湖の入口付近でオーストラリア最初の石炭が発見された、という説もある

活動日誌

8月3日(日) 担当:海田 智咲

今日からオーストラリアというワクワクと心配から始まったこの10日間の留学。

とても楽しみでした。みんなとても集合が早く驚きました。

いざ飛行機に乗り出発となると飛ぶときに体が後ろにひかれてびっくりしました。そこから約2時間も飛行機に乗っておくと耳が痛くなりとてもつらかったです。羽田空港に到着し、私は上田さんと山口さんといっしょにスターバックスを飲みました。たくさん歩いて少し暑かったので、とても冷たいスタバの飲み物はとても美味しくて良かったです。オーストラリアに行くために検査やパスポートなどの時はとてもドキドキしました。オーストラリアの飛行機に乗り、いざ出発しました。機内では映画がたくさんあり、どれを見ようかな?と悩みました。機内食は、私は天井を食べました。お腹がいっぱいで少し残してしまいましたが、とても美味しかったです。

明日からのホストファミリーと過ごす時間を大切にしようと思います。



8月4日(月) 担当:兵間 尋

この日の朝5時ころ僕は機内で起きてしまいました。内心もっと寝ていたいと思っていました。しかし、外を見てみると、真っ赤な太陽を見ることができました。とても美しい日の出を飛行機の中から見るすることができました。

朝6時ころに機内食の朝食が配られました。中身はヨーグルト、サンドイッチ、チョコレート、フルーツがありました。ヨーグルトはカップの中に入っていたのですが、気圧の影響もあってパンパンにふくれていました。朝食も夕食と同じくとてもおいしかったです。

8時30分ころにシドニー空港につきました。入国カードをチェックしてもらい、スーツケースの中を見せないといけないと思っていましたが、すんなりと通過することができました。その後、バスでシドニーを少し見て回った後、クレアという自治体国際化協会のシドニー支部を訪れ、海外で働く人のお話を聞くことができました。その後、フードコートへ行き人生で初めてケバブを食べました。自分でケバブに何のソースをかけてもらうか選ぶことができ、チリソースとマヨネーズをかけてもらいました。思っていたよりもチリソースが辛くておどろきました。しかし、それ以上においしかったです。

その後、セントラル駅に向かい、セントラル駅からニューカッスル・インターチェンジ駅に向けて出発しました。そこで初めて、ホストファミリーと会うことができました。その後、夕食を食べにハンバーガー屋へ行きました。その時ホストブラザーがいなかったため、僕を含めて5人で食べました。そして、会計金額を少しみてみると100ドルと書かれてありおどろきました。その日はつかれていたのですぐに寝ることができました。



8月5日(火) 担当:石井 琴子

今日は、初めてのハイスクール通学の日でした。朝はとても緊張していましたが、ホストシスターが校内を案内して友達を紹介してくれるうちに、楽しい気持ちが大きくなってきました。生徒たちは次々と話しかけてくれ、とてもうれしかったです。名前も覚えられずもどかしかったです。日本語の授業を取っている生徒が多く、日本語で挨拶してくれる子もいて、とても可愛かったです。学校はとにかく広く、授業の教室の場所が分からなくて何度も迷子になりました。今日の授業で1番難しかったのが美術です。美術の授業では粘土を使いましたが、説明が何となくしか聞きとれなかったのと、やるのが難しすぎて形にならないまま終わってしまいました。現地の生徒達は驚くほど器用に作品を作っていて感心しました。私が一番驚いたのが、モーニングティーです。2時間目が終わるとモーニングティーの時間があり、みんなでおやつや、フルーツを食べるのがとても楽しかったです。もってくる物も家によってかなりちがっていたので、そこもおもしろいと思いました。日本でもぜひとりいれてほしいと思うぐらい、最高の制度だと思いました。下校時には待ち合わせ場所が分からず、迷子になりましたが、ホストシスターの友達が助けてくれました。放課後はビーチを散歩しました。冬なのに海で泳ぐ人やサーフィンをしている人がいて驚きましたが、日本の冬ほど寒くないオーストラリアの気候ならではの光景だと思いました。帰りに食べたアイスはジェラートのようでとてもおいしかったです。



8月6日(水) 担当:山口 史乃

今日の朝は、昨日行ったスーパーで買った有名なコーンフレークを食べました。はちみつ味の味がほんのりして、とても良かったです。

そして今日は、広島に原爆が落とされた日でしたので、公園に行き、式典に出席しました。私は、市長さんたちのお話が終わった後に、スピーチをしました。やっぱり大勢の前だったので、とても緊張したけれど、市長さんや先生方にスピーチが終わった後に「よかったよ」と言ってもらえてとてもうれしかったです。後に ABC ラジオの方からインタビューを受けましたが、あまり上手く答えられなくてとても残念でした。

その後は市長さんの部屋で写真を撮ったり、少し広い場所で宇部市のプレゼンをしました。その時に、市長さんたちがお土産をくださいました。中には水筒やステッカー、キーホルダーが入っていました。どれもとても素敵で気に入りました。キーホルダーは、かばんにつけて、この先も使おうと思います。

放課後には、犬のミリーとイジー※2、イジーのお姉さんとお兄さんで散歩に行きました。たどり着いたのはビーチでした。「昨日より波が高いね」という話や「海はどうして青いと思う?」という話をしました。その質問に対してイジーは、「空の色が反射していると思う」と返してくれました。

散歩から帰ってきて、みんなで夕食を食べました。カリフラワーを使ったグラタンのような料理がとても美味しくて、作り方を聞いたりしました。昨日気になっていたオーストラリアで有名な音楽もその時に聴きました。大体アメリカから来ている曲を、オーストラリアの人はよく聴くそうでした。

※2 ホストスチューデントの名前





8月7日(木) 担当:上田 菜桜

今日は、バス停でバスを待っているときに急に雨が降り始めて、私の折りたたみかさ
でホストシスター2人と私の3人入っていたけど、みんなびしょぬれになってしまい、一回
家に帰って、車でつれていってもらいました。

一時間目と二時間目は cooking で、カップケーキのかざりつけをしました。二時間目
が終わってある休憩時間では、作ったカップケーキを食べました。三、四時間目は、
artclass で絵をかきました。ランチタイムは、みんなでカードゲームをしました。午後は音
楽の授業で、木琴や手拍子や歌ったり、日本の遊びをしました。とても楽しかったです。

今日の放課後は、ニューカッスルで一番大きいショッピングモールに行きました。そこ
では、コアラのキーホルダーとポーチを買いました。

夜ごはんを食べ終わると、「もちアイスクリーム知ってる?」と聞かれて、知らなかったか
らホストブラザーとホストシスターといっしょにスーパーに買いに行って、「気になるお菓
子も選んでいいよ」と言ってくれました。家に帰ってもちアイスクリームを食べました。「雪
見だいふく」みたいでした。その後は、「kerplunk」というゲームをしました。シャワーして
ねました。



8月8日(金) 担当:アジズ・アヒアン・ヒサン

1時間目ダンスをしました。そんなガチじゃなくて良かったです。基本的なダンスのムーブを習い、その後はグループにわかれて、ダンスをつくりました。2,3時間目はオーストラリア、日本の文化クイズをしました。4時間目は地理でした。どういう風に日本の大都市は都市化していったのか、田舎・都市のメリット、デメリットについて考えました。

昼はピザパーティーがあってピザを食べました。あと食堂からサンドウィッチも食べました。

5時間目は理科でした。ティーバッグを飛ばしてみる実験をしました。ティーバッグにマッチをつけて飛ばし、いろいろな長さで比較してみました。一番長いのが一番高く飛びました。段々高くなるのではなく、急に飛ぶのが不思議でした。今日やったのは先生が前に回路をうつして、それを実際につくってみました。グループでそれぞれ勝負し、ほぼ自分がしました(笑)。

金曜日なので下校が他の曜日より、早く終わるのでうれしいです。帰る途中、ポテトを買いました。量が多かったです。帰った後はホストブラザーと犬と公園に行きました。サッカーとクリケットをしました。ホストブラザーの兄、上手でした。家に帰る途中、アイスを買いました。オーストラリアバニラとトッピングは自分で選ぶことができ、オレオとチョコにしました。バニラが日本のとちょっと違いました。それでも美味しかったです。

その後、ホストファミリーの家族のところへ会いに行きました。庭にわとりもおりました。みんなと一緒にラグビーの試合も見ました。家族みんなめっちゃくちゃ熱心でした。ラグビーの試合で起きたことが紙に書かれていて、ビンゴもしました。





8月9日(土) 担当:正司 葡乃香

今日はホストシスターのお誕生日パーティーがありました。なので朝はリビングのかざりつけの手伝いをしました。風船をたくさんふくらませたので、とても疲れましたが、かわいい部屋になったので良かったです。しかし、とても疲れてしまってお昼寝してしまいました。そして目が覚めると、もうパーティーが始まってしまっていました。15人ぐらい友達に来ていてすごく盛り上がっていました。また、庭でたき火をしたり、サンドイッチを食べたりしました。寿司もありました。カップ巻きとツナっぽい物がありました。けどツナには火がとおっていておどろきました。ホストシスターの友達に日本語が少し話せる子がいました。なので、日本語を少しだけ教えました。すごくよろこんでくれたのでうれしかったです。また、その子は、Mrs.GREEN APPLE が好きらしく、好きな曲を教えて、歌ってくれました。すごく上手でした。パーティーが終わるころにはみんなの両親が家にむかえに来ていました。そしてむかえに来てくれた両親にキスやハグをしてからサンキューといっていて、距離の近さにおどろきました。





8月10日(日) 担当:大原 和武

今日は、朝ビーチに行きホストマザーの親戚達と食事をしにいきました。そこで驚いた事が2つあります。

1つ目は、朝のビーチが一番良い事です。僕はビーチが好きでもう一度ビーチに行きたいと思っていました。しかし、まさか朝に行くとは思っていませんでした。そしてビーチにつくとジリジリと焼き付ける太陽と海から吹く冷たい風が重なりとても良い気分でした。ビーチの近くにキッチンカーがあり、そこで朝食を食べました。それはとにかく最高でした。美味しいサンドウィッチを食べながらきれいな海を見てとても満足をしていました。しかし、運悪く突然大雨が降り始めました。僕達は一時帰還し満足が不満へと変わりました。

2つ目はピザにパイナップルが入っているという事です。僕達はホストマザーの親戚と昼食を食べにいく事になりました。メニューがとても多く、見た事もない料理がたくさんありました。しかし、その中でも僕はパイナップルピザというのにすごくひかれました。そしてピザが来て、僕はとても驚きました。本当にピザの上にパイナップルがのっていて、すごく分厚かったです。ピザにパイナップルがなかなか合い、とてもおいしかったです。また、漫画のようにかみ切ろうとしても、チーズがビヨーンと伸びました。



8月11日(月) 担当:海田 智咲

今日は、学校が最後の日でした。午前中にみんなでブラックバットリザーブに行きました。オーストラリアの動物や鳥などを見ることができました。私がオーストラリアに来てからずっと見たかったコアラやカンガルーを見れてうれしかったです。ワークシートもあり、鳥類やは虫類、ゆうたい類などのことについてよく知ることができました。

バスで学校に帰り4時間目が終わるまで時間があつたのでバレーボールに似た遊びをしました。いつボールが来るか分からないのでドキドキしました。みんなとてもうまく楽しかったです。

5時間目は日本語の授業を受けました。ブラックバットリザーブにいた動物たちについてのワークシートの振り返りをしました。分からなかったところもしっかりと書き留めることができました。6時間目は修了式に似ている式をしました。先生からおかしのプレゼントをもらいました。シールも入っていてとてもうれしかったです。時間が余りゲームをしました。ハッカーになり相手のポイントをどんどんうばって行くゲームでした。私はどんどんポイントがみんなにうばわれていったけれど、後半にまき返したので、5位ぐらいに入ることができました。

学校が終わったあとはメリーウェザーハイスクールの生徒たちとたくさん写真を撮りました。記念に残ると思うので、とても良かったです。家に帰り少し休けいしたあと、サラ^{※3}たちのクラリネットについて行きました。音色がとてもきれいですごかったです。帰り、夜ご飯を食べました。ツナとキノコのクリーム煮を食べました。食べ終わりお母さんがデザートを用意してくれているときに、ミア^{※4}とサラがオーストラリアの物をお土産としてたくさんくれました。どれもかわいく最高でした。手紙も入っており手紙を読むと私が滞在中に教えた日本語も書いてあってとてもうれしかったです。

※3 ホストスチューデントの名前

※4 ホストシスターの名前



8月12日(火) 担当:石井 琴子

いよいよ帰国の日を迎えました。朝、ホストファミリーが駅まで送ってくれました。永住したくなるぐらい、この1週間はとても楽しく、ホストファミリーともっと一緒にいたかったですが、今はSNSなどで簡単に連絡を取り合えるので、この時代に生まれてこれて良かったと思いました。

電車でシドニーに向かい、到着後は来た時と同じように、シドニー駅のフードコートで昼食をとりました。Gong cha では氷や砂糖の量など、少し複雑な注文をする必要がありましたが、滞在中にフードコートなどで注文したことがあったので、思い通りにスムーズにオーダーでき、自分の成長を感じることができました。

昼食後はバスでオペラハウスの近くまで移動し、自由行動の時間がありました。天気も良く、気持ちの良い空の下でお土産を買ったり、写真をたくさん撮ったりして楽しみました。滞在中はあまりお金を使わなかったため、思ったより手元に残っていて、張り切ってお土産を買ってしまいました。

その後、再び集合して囚人博物館を見学しました。普段あまりなじみのない囚人や移民の歴史にふれることができ、とてもおもしろかったです。帰国後に、この博物館が世界遺産であることを知り驚きました。

シドニー空港については、だれともなく「I Love Sydney」Tシャツを皆で買い、おそろいで着ました。同じTシャツを着て写真を撮ったりする時間はとても楽しく、良い思い出になりました。



8月13日(水) 担当:山口 史乃

帰りの国際線では、行きの時よりもよく眠ることができました。ホストファミリーからたくさん写真が送られてきていたのを見て、楽しかった思い出と、もっと話したかったという後悔がありました。この長い間を振り返ってみて、自分なりに話せたこと、学校の友達が少人数ではあるけどできたことは、自分の成功体験と言えると思います。しかし、言い方が分からなくて発言するのをためらったことがありました。単純に英語のスピーキングになれていなかったことが原因だとは思われるのですが、自分の知っている単語で文章を作り出すことも大事だということが分かりました。オーストラリアに行く前も、こんな事例が何度もあったので、この経験を活かして考えを改めていこうと思いました。そんなことを考えながら、あっという間に羽田空港につきました。ここから国内線に乗るまでには結構時間があつたので、朝食を食べたり、お土産を買ったりしました。オーストラリアとは違い、聞こえてくる言葉は日本語ですべての意味が理解できました。私ももっと英語を勉強して、聞こえてくるのが英語でも、おおむね理解できる形を目指して行きたいと思いました。そこからは国内線に乗り、とうとう宇都に帰ってきました。家族があたたかく迎えに来てくれて、やっぱり居場所はここにあるな、という実感がわきました。派遣生のみんなで写真を撮り、各々が家に帰っていきました。このような機会を作って下さった全ての方々に感謝です。本当にありがとうございました。ちなみに家に帰ってからはすぐ風呂に入りました。湯ぶねにつかる日本の文化には感動しました。何となく、日本のありがたみがひしひしと感じられて、なんだか変な感じでした。その後は和食を食べて、たたみの上で寝ました。私にはまだ、日本の方が体に合っているようです。



慶進中学校 3年 アジズ・アヒアン・ヒサン

8月3日に山口宇部空港を出発し、羽田空港経由で4日にシドニーに着いた。シドニー空港に着いた後は、ダウンタウンの方へ行き、フードコートで昼食をとった。平日なのにたくさん人がいて驚いた。その後、電車でニューカッスルに着いた。着いたときには暗くなっており、ホストファミリーの方々が歓迎してくれた。

そして、ホームステイが始まった。現地の学校は日本の学校とほぼ同じ時間に始まり、下校は日本よりも早い。また多文化国家であるため、多種多様な人々と交流することができた。みんな親切で、グータッチしてくれたり、名前を聞いてきたり、とても親しみやすかった。



授業は日本語、理科、地理、体育など、色々な教科を受けた。一番楽しかったのは、理科の授業で、ティーバッグを飛ばす実験やどのグループが一番早く回路をつくれるかなどをした。また、一つ驚いたことは、中学一、二年は日本語を必修科目としていることだ。日本の学校と異なることは、一、二時間目と三、四時間目と五、六時間目の間に休憩が

ないことで、その代わり、二時間目の後に、リセスがあり、そこでみんなお菓子などを食べる。昼食は四時間目の後で、みんな中庭や教室など色々な所で食べる。放課後はホストブラザーとゲームしたり公園に行ったり、ショッピングに行ったりして遊んだ。



オーストラリアでの一番の思い出は、ビーチでクリケットをしたことである。休日

にホストファザーとブラザーと一緒に2つのビーチを訪れた。昼食はフィッシュ&チップスを食べた。ビーチに行ったらこれが定番らしい。また滝などもあってきれいだった。クリケットする時、ボールははねるかなあと思っていたけど、思った以上にはねて、いっぱい走った。天候はくもりで風があって涼しかった。

この研修では、伝統や文化について学ぶことができ、貴重な体験をさせてもらった。今も、連絡を取り合っており、引き続き英語でコミュニケーションをしていきたい。

最後にこの研修に関わったすべての方々、本当にありがとうございます。

西岐波中学校 2年 石井 琴子

この研修は、私にとって初めてのオーストラリア滞在でしたが、沢山の現地の人々とふれ合い、色々な場所に行き、様々なものを見て、食べて、忘れられない体験になりました。

特に印象的だったのは、思った以上に様々な人々がいたことです。行く前は、なんとなく白人ばかりの国をイメージしていましたが、実際は私のホームステイ先も香港出身のファミリーだったし、学校に行くとヨーロッパ系、アジア系、アフリカ系と多様な人種の生徒たちが一緒に勉強し、学校生活を楽しんでいました。同じ人種同士のつながりはあるようでし



たが、学校で人種の垣根を感じることはなかったし、実際に私も様々な人種、性別、年齢



の生徒と友達になり、連絡先を交換しました。私自身は仲良くなるのに性別や年齢はあまり気にしない方だけど、ニューカッスルの学校の多様性はとても新鮮で、ものごとに対する考え方や視点が大きく広がったように思います。また、そういった多様性のためなのか、制服はあるけど日本より着こなしに寛容でかなり自由なところもいいなと思いました。

ホストファミリーともすぐに打ち解けて、毎日楽しく過ごすことができました。一緒に買い物に行く度に「これ、お土産にいいんじゃない?」と色々買ってくれたホストマザー、みんなで「Wednesday^{※5}」を

観ていて「今日の琴子に似てない?」と言ったホストファーザー、放課後色んな所に行ったり、バーベキューでマシュマロを焼いて一緒に食べたホストシスター、皆のおかげで楽しすぎて、最後の方は「I don't wanna leave!!」と言い続けていました。滞在中、ずっと楽しく過ごせたのも、ホストファミリーが私を家族の一員として受け入れてくれたことがとても大きかったです。また是非、オーストラリアに行きたいです。そして、聞きとれるけど言いたいことがうまく伝えられないことがあったので、それまでにもっと自分の言いたいことを英語で表現できるようになります。

※5 海外の人気コメディホラーテレビドラマ

西岐波中学校 3年 上田 菜桜

今回の夏、私はオーストラリアのニューカッスルで10日間の研修に参加させていただきました。この10日間は、私の人生の中で最も濃く、かけがえのない経験となりました。初めてホストファミリーの家に着き、自分の部屋に入ったときは少し不安で寂しかったけれど、家族は本当に優しく温かく迎えてくれました。日本では「お客様」として扱われるこ



とが多いけれど、ホストファミリーは本当の家族の一員として接してくれたので、次第に安心して過ごせるようになりました。

学校ではさまざまな国籍やバックグラウンドを持つ人たちと一緒に学びました。知らない人でも目が合えば笑顔であいさつをしてくれて、その雰囲気がとても心地良かったです。最初是一緒に行った日本人と話すことが多かったけれど、「この貴重な時間を無駄にしたくない」と思い、途中からは現地の友達をつくることを意識しました。持っていた日本のお菓子をプレゼントするととても喜んでくれてうれしかったです。

授業では、日本との違いを強く感じました。生徒たちは恥ずかしがらずに先生の話を遮ってでも意見を伝えていて、その積極性に驚きました。放課後はショッピングモールやビーチへホストシスターと行ったり、休日にはホストファミリーが私の希望で動物園も連れて行ってくれました。とても楽しい思い出になりました。

学校最終日、仲良くなった友達と泣きそうになりながらハグを交わし、手紙を渡しました。ホストファミリーとの最後の夕食はレストランに連れて行ってもらって、すでに涙をこらえるのが大変でした。別れの日、ニューカッスル駅まで送ってもらい、先生に「もう、電車に乗るよ」と言われたとき、涙があふれて止まりませんでした。何度もハグをしてお別れをしました。



この研修を通して、私は「世界はこんなに広いんだ」ということを肌で実感しました。もっと知らない世界を知りたい、そして自分の視野をもっと広げたいと強く思いました。将来は海外に関わる仕事に就きたい、という新しい夢もできました。この素晴らしい研修をささえてくださった全ての方々に、心から感謝しています。

川上中学校 2年 大原 和武

僕は、このジュニアグローバル派遣生に選ばれて、とてもうれしかったです。僕は一度旅行でオーストラリアに行ったことがありますが、その時は、あまり現地の人と交流が出来ませんでした。だから、今回は現地の人と沢山の交流を深め、自分にとって貴重な体験にしたいと思いました。そこで、僕はこの研修で3つの目標を掲げました。



1つ目は、友だちを 20 人作る事です。ニューカッスルの学校に行くので、そこでたくさんの友達を作ろうと思いました。しかし、いざ学校に行くとちゃんと喋れるだろうか心配になりました。それでも勇気を出して、いろいろな人に話しかけました。目標の 20 人をはるかに超える 30 人以上の友達が出来ました。SNS を通して帰国してからも交

流をしています。

2つ目は、同世代の子の考えを知る事です。学校では、みんな日本人に興味があるようで、日本の事を沢山質問してきました。その時にただ答えるだけではなく「How about you?」と相手にも尋ね、お互いの考えを言い合いました。そして、学校や友達、勉強、将来についてのアンケートを作って持って行ったので、アンケートに答えてもらい考えを知ることが出来ました。

3つ目は、8 日間の日本語禁止です。日本語を一切喋らないつもりでしたが派遣生同士でいる時間が多く日本語を使ってしまいました。しかし、ホームステイ先や日本人がいない時は、英語で過ごしていました。1 人で足をぶつけた時も「Ouch!」と言っていました。

この研修で、僕は日本とオーストラリアの文化の違いをしるという貴重な経験が出来て楽しかったです。今後このような機会があれば、また挑戦したいです。そして、今度は僕が外国人を招きたいです



厚南中学校 2年 海田 智咲

私にとってこの研修は、初めての海外であり、英語が通じるだろうか、友達はあるだろうかと不安でいっぱいでした。

オーストラリアに到着し、ホストファミリーと会うまでは、とても緊張していました。電車に乗り、ニューカッスル駅に着くと、ホストファミリーが出迎えて下さいました。ホストファミリーは、片言英語の私を優しく受け入れ、たくさん話しかけて下さり、私の不安はなくなりました。



翌日からサラと一緒に学校に行きました。生徒は、みんなとてもフレンドリーで、一緒に学校見学をしたり、お昼を食べたりし、すぐにたくさんの友達ができました。

放課後や休日は、ホストファミリーやサラの友達と一緒に、ゴルフやテニスなどスポー



ツをし、ビーチ散策やショッピングにも行きました。ビーチはとても美しく、何度行っても飽きることはありませんでした。サラの絵画教室にも行き、私も一緒に体験しました。また、私が一番食べてみたかったオーストラリアのジャム、ベジマイトも食べました。とても苦かったですが、残さず食べることができました。

今回の研修で、最初は英語での会話が難しく、理解できないこともありました。しかし、ホストファミリーがわかりやすい英語で伝えて下さり、また毎日英語を耳にすることで、段々と会話が成り立つようになりました。これは、この研修での大きな私の成長の一つだと感じます。もっと英語を上達させて、ホストファミリーにまた会いたいです。

この10日間は、あっという間に過ぎましたが、ホストファミリーやオーストラリアの人の温かさ、外国と日本の文化の違いにも触れることができ、夢のような時間を過ごすことができました。このような貴重な経験をさせて下さった宇部市、観光交流課の皆さん、引率の先生方、一緒に参加した友達、この事業に携わった全ての方々に感謝いたします。



神原中学校 3年 正司 葡乃香

今回の研修事業を通して沢山の貴重な体験をしました。

出国する日、初めての海外ということ、私はとても緊張しました。飛行機の中で寝るのは慣れなくてあまり眠れませんでした。オーストラリアに着くと日本では見られないような外観の建物が沢山ありました。ワクワクした気持ちでいっぱいになり、緊張を忘れられました。シドニー観光を終え、約3時間ほど電車に乗り、ニューカッスルに着きました。電車の中では英語を話して生活して



いくことに対する不安が積もっていましたが、駅でホストファミリーの方が優しく出迎えてくれたので、不安が少しだけ和らぎました。

次の日からハイスクール通学が始まりました。メリーウェザーハイスクールはすごく広くて迷子になってしまいそうでした。学校では色んな学年の授業に参加しました。ゲーム感覚に近い授業が多く、日本の学校との違いを感じました。また、優しい人が多く、迷子になっている私たちを教室まで案内してくれました。放課後は制服のまま遊びに行ったり、



ビーチに行ったりしました。見たことないぐらい綺麗なビーチに惚れ惚れしました。

金曜日の夜には基督教の集会に参加しました。同じ年ぐらいの子が沢山いました。楽しくゲームをした後、聖書を読んだり、意見交換したりしました。みんなしっかりと基督教に向き合っていて感心しました。また、日本語を勉強しているルイザと仲良くなりました。

連絡先を交換して、いまでも交流が続いています。

休日はホストファミリーと一緒に動物園に行きました。オーストラリアといえばのコアラやカンガルーを見たり、触ったりしました。すごく可愛かったです。

オーストラリアでの10日間は英語が伝わらなかったり、理解できなかったり大変なことも多かったけど、とても楽しくて、私にとって忘れられない10日間になりました。

黒石中学校 2年 兵間 尋

僕は、今回のジュニアグローバル研修会で、すごく貴重で楽しい体験をさせていただきました。僕自身、初めての海外だったのですが、いろいろな方がサポートしてくださり、楽しむことができました。僕がこの研修会で楽しかったときを3つ紹介します。



1つ目は、ホストファミリーと過ごす毎日です。特に、ホストブラザーのライアンとは、毎日卓球をしたり、ゲームをして遊びました。ライアンは、卓球がとても強くなかなか勝つことができませんでしたが、忘れることのできない素晴らしい日々でした。

2つ目は、ハイスクールでの思い出です。ハイスクールには、計5日間通学しました。ハイスクールの中を歩いてただけで、みんなが声をかけてくれたり、よく話しかけてもらいました。オーストラリアの人達はとてもフレンドリーで、すぐに仲良くなることができました。また、ハイスクールの昼休みにした、バレーやハンドボールも楽しかったです。ハンドボールは、ゴールにボールを投げ入れるハンドボールではなく、自分の陣地に来たスーパーボールのようなボールを手で打って、打ち返すスポーツでした。日本にいたときは、このスポーツのことを知りませんでしたが、知ることができました。

3つ目は、宇部の生徒と過ごせたことです。最初は、みんな緊張していて、あまり会話も生まれなかったけど、この研修会を通して、みんな仲良くなることができました。宇部の生徒とは、一緒に授業を受けたり、一緒にシドニー観光をして、仲を深め、楽しい思い出をつくることができました。これからも、この8人で仲良くしていきたいと思います。



僕はこの貴重な経験を通して、将来の幅を広げることができたとおもえるようになりました。また、機会があれば、海外へ行きたいとも思えるようになりました。僕は、この貴重な経験をさせてもらい本当に良かったです!そして、この経験をもとに、幅を広げることのできた将来へ向かい進みたいです。

常盤中学校 3年 山口 史乃

私のオーストラリアへの留学は、英語の勉強はもちろんのこと、それ以上に、自分の人生においてとても大切なことを教えてくれた、かけがえのない経験となりました。

留学の初日、ホストファミリーと会うことを前に、私はニューカッスル行きの電車の中で、一生懸命に自己紹介の練習をしていました。しかし、いざ会ってみると、緊張して英語が全く出てきませんでした。その後、車に乗って家へ向かう間も、自分から話しかけるのがとても難しく感じたのを覚えています。それでもみんなは、そんな私を温かく迎えて



くれました。夕食後、日本から持参したクッキーや箸などをお土産に渡すと、ホストファミリーがすぐにクッキーを手に取り、「So good!」と言って笑顔で食べてくれました。その一言が本当に嬉しくて、「もっと英語でみんなと話したい」と強く思うようになりました。

ハイスクールでは、たくさんの友達ができました。休み時間に「Let's take a picture together! 」と声をかけてくれたり、次の教室の場所を教えてくれたりと、みんなの優しさが心にしみました。また、帰りのバスを待つ間、カードゲームにも誘ってくれました。そこには、日本と変わらない友情がありました。私は、国や言語が違って、笑顔と親切な気持ちがあれば、人と心を通わせることができるのだと実感しました。

そして何より、オーストラリアの自然は本当に素晴らしいものでした。ごみ一つない広い海岸で、ホストスチューデントのイザベラちゃんと一緒にドーナツを食べたこと。ふたりで、



とても濃く澄んだ青空を見上げながら話したこと。風の音や海のにおいを感じ、世界の広さを実感したこと。どれも私の心にずっと残る大切な思い出です。

今回の経験は、きっとこれからの私に大きな影響を与えてくれると思います。そして、留学を支えて下さった全ての方々に、心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

ジュニアグローバル研修を終えて

昨年度に引き続きジュニアグローバル研修の引率者として、ニューカッスルに訪問できることを大変うれしく思い、楽しみにしていました。今年度も、生徒たちが宇部市とニューカッスル市の懸け橋となれるように、また無事に連れて帰ることができるようにという2点を目標として、研修に臨みました。



8月3日、山口宇部空港からの出発便が30分遅れたため、羽田空港では両替をしてすぐに出国審査へと向かいました。スムーズに手続きを終え、元気な8人の派遣生とともにシドニーへと旅立ちました。シドニー空港でも大きなトラブルはなく、オーストラリアに無事入国することができました。シドニーでは、最初にCLAIRを訪問し、海外で働くことやオーストラリアでの生活についてのお話を聞きました。長旅の後でしたが、熱心に耳を傾け、大変有意義な時間を過ごすことができました。その後、フードコートに移動し、英語を使って注文するという体験をしました。フロアをぐるぐる回り、お目当てのお店を見つけて注文をし、美味しそうにランチをほおばっていました。どの子も臆することなく英語を使う姿に頼もしさを感じました。

ニューカッスル行きの電車まで少し時間があったので、セントメリーズ教会※₆やハイドパーク※₇を見学し、その後、セントラル駅からニューカッスル行きの電車に乗りました。期



待と不安でワクワクしながら2時間半を過ごし、ニューカッスルインターチェンジ駅に到着しました。電車を降りると、改札の向こうにたくさんのホストファミリーの姿があり、子どもたちは笑顔で挨拶をし、それぞれのホストファミリーと家に向かっていきました。

※₆ シドニーにあるローマ・カトリックの大聖堂。19世紀に建築されたネオ・ゴシック様式の建物

※₇ シドニーにあるオーストラリアで最も歴史の古い公園。園内には樹齢100年の巨木が林立



次の日から、メリーウェザーハイスクールに通う生活が始まりました。初日は、歓迎式で校長先生からお言葉をいただき、ホストスチューデントに校内を案内してもらいました。最初に参加した日本語の授業では、早速宇部市のプレゼンをさせていただきました。ジェスチャーを巧みに織り交ぜ、今までの練習の成果がしっかり

出せた良いプレゼンで、生徒たちも真剣に聞いてくれました。

家庭科の授業では、カップケーキにアイシングをしたり、体育の授業では、本格的なトレーニング機器を使って体力作りをしたりするなどの経験をしました。私が興味深かったのは工芸の授業でした。粘土を使って先生が作ったものを模倣していくのですが、オーストラリアの生徒たちは先生が提示したものと全く違うサイズのものを作り上げる生徒がいて、その自由な発想に驚きました。きっと日本であれば、みな先生と同じサイズのものを作成するはずです。型にとらわれない自由な発想は、授業の様々な場面で見られ、日本とオーストラリアとの教育観の違いを感じさせられました。



メリーウェザーハイスクールの生徒たちは大変明るく、親切で、出会うたびに「Hello!」「こんにちは!」と声をかけてくれました。派遣生達もどんどん自分から声をかけ、楽しく交流することができていました。学校での授業や友達、ホストファミリーとの会話はすべて英語で行われるため、スピードが速く最初は聞き取るのも難しく、また自分の思っていることを英語で伝えることも上手くできなかったようです。たくさん悔しい思いをしたようでした



が、日が経つにつれ、上手くコミュニケーションを取れるようになり、自信もついてきているように感じました。またどのホストファミリーも大変温かく、愛情を持って接してくださり、どの子も毎日笑顔で登校することができていました。ホストファミリーやハイスクールの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。



ニューカッスル市長訪問では、急遽平和記念式典に参加することになり、平和についてのスピーチを行いました。参加したみなさんが、本当に良いスピーチだったと感激されており、大きな役割を果たすことができたと感じました。市長訪問後、港の辺りを徒歩で散策しました。とても天気が良く、空や海の真っ青な色が大変さわやかで印象的でした。

8月12日はいよいよホストファミリーとのお別れの日となりました。みなさん、駅まで見送りに来てくれ、涙で別れを惜しむ子どもたちの姿もありました。たくさんの思い出と貴重な経験を得て、シドニーに向けて旅立ちました。

シドニーでは、オペラハウスやミセスマッコーリースチェア※8、ハイドパークバラックス※9等を訪れました。ガイドの方が初日と最終日にオーストラリアの歴史や、生活について丁寧に説明してくれ、大変勉強になりました。

私は昨年度に引き続き、ジョディ先生のお宅にホームステイさせていただきました。家族の皆さんが本当に親切で、終始リラックスして過ごすことができました。今年の10月に日本語スピーチコンテストの入賞者の引率者として宇部



に来られるので、ぜひ恩返しをしたいと思っています。

今回の貴重な研修を通じて、派遣生達は困難な状況も自らの力で打開していくことや、積極的にコミュニケーションを取ることの大切さ、他国の文化を学ぶこと



の意義を感じることができたと思います。今後もさらに成長し、宇部市とニューカッスル市の交流に力を発揮してくれることを期待しています。

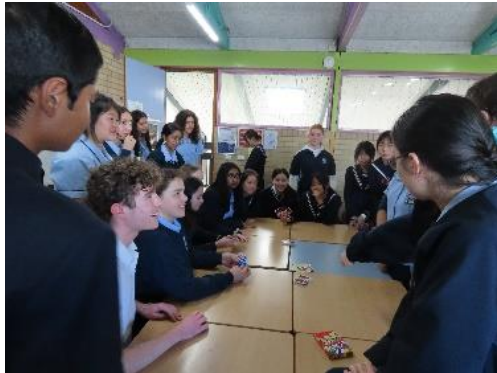
最後になりましたが、今回このような機会を与えてくださった宇部市、観光交流課、宇部市・ニューカッスル姉妹都市友好協会、そして研修派遣に関わっていただきましたすべての方々に感謝を申し上げます。今後もジュニアグローバル研修が末永く続いていくことを祈念しております。ありがとうございました。

※8 有名な観光地。ニューサウスウェールズ州の初代総督マッコーリー氏が、妻のために作らせた眺望に優れた石の椅子。

※9 19世紀にマッコーリー総督によって、シドニー中心部に建設されたレンガ造り建築物。現在は博物館として公開。

ニューカッスル研修を終えて

この度、宇部市の代表として選ばれた 8 名の生徒とともに、オーストラリア・ニューカッスルでの 10 日間の研修に引率教員として参加いたしました。ニューカッスル訪問までの事前研修では、宇部市の ALT との英会話レッスンなどを通して、失敗を恐れずに英語で話そうとする生徒たちの前向きな姿勢がす



でに表れていました。本番では更にどのように成長するのか楽しみにしていました。

オーストラリアのシドニーに到着後、CLAIR（自治体国際化協会）を訪問し、オーストラリアでの生活や様々な情勢、JNTO（日本政府観光局）の取組などについてお話を伺いました。

その後、シドニー市街のショッピングモール内にあるフードコートで昼食を取りました。食事の際には、生徒各々が英語で注文をすることができました。事前の ALT との英会話レッスンやそれまでに生徒の日頃の努力が大いに発揮されていました。

その後、電車でニューカッスルへ向かいました。生徒たちは事前にホストファミリーとメールでやり取りをしていたため、実際に出会えるのを今か今かと心待ちにしていました。長旅を経て、ようやく夜にニューカッスル駅に到着すると、ホストファミリーが温かく迎えてくださり、生徒たちはとても嬉しそうな表情を浮かべていました。

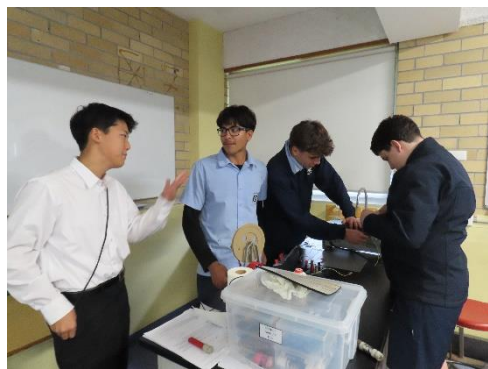
翌朝からメリーウェザー・ハイスクールでの学校生活がスタートしました。学校内ですれ違う先生方や生徒の皆さんがとても親切に接して下さい、宇部市の生徒は安心してスタートを切ることができました。とはいえ、やはり初めの数日は緊張があったからか、宇部市の生徒同士で固まって過ごす様子が多く見られました。しかし、日を追うごとに宇部市の生徒同士ではなく、自ら現地の生徒に話しかけて、休み時間も一緒に過ごすなどの更なる成長の姿が見られるようになりました。宇部市の生徒が、現地の生徒と交流を深める中で特に印象に残った授業は、日本語と理科、体育の授業です。





日本語の授業では、事前に準備していた宇部市の魅力や日本の学校についてのプレゼンテーションを、現地の生徒に発表しました。現地の先生方からも高い評価をいただき、「ぜひ私の他のクラスでももう一度プレゼンをしてほしい。」と声をかけていただくほどでした。回数を重ねるごとに、全員のプレゼンテーションのスキルが向上していくのを肌で実感しました。また、現地の先生からのご要望で、「日本のじゃんけん」を英語で説明する機会も与えていただきました。宇部市の生徒は、流暢な英語とジェスチャーで説明した後、現地の生徒たちと一緒にじゃんけん大会を行うこととなり、それはそれは大盛り上がりでした。英語で日本の遊びを伝えることを通して、国境を越えて集まった1つのクラスの中で、心を通わせる輪ができたような時間でした。

理科の授業では、英語で”Tea bag rocket”（エネルギーの移動についての実験）や電流測定器を用いた回路実験を体験しました。生徒たちは英語で説明を受け、現地



の生徒と協力しながら挑みました。方法が分からず困ったときには英語で質問したり、現地の生徒に優しく教えてもらった際には、笑顔でお礼を述べたりする姿が見られるなど、宇部市の生徒全員が、現地の生徒と上手に関わり合いをもつことができました。特に印象的だったのは電流の実験での出来事です。宇部市の生徒は、電流の実験についてはすでに学校で学習していたため、積極的に現地の生徒に電流の実験のやり方を教えていました。その姿を見た現地の生徒が私に「彼は日本の数学のテストでいつも満点を取るの？本当にすごい！」と目を輝かせながら話しかけてくれました。その宇部市の生徒は、周囲の他の生徒からも「すごいね！」と声をかけられました。このように自然に他者のことを尊重できる精神に、私は深く感銘を受けました。教えた生徒本人は驚いた様子でしたが、同時に満面の笑みを浮かべていました。そのクラスの雰囲気の中に自然とある“Respect others（他者を尊重する）”の精神の素晴らしさを、私自身も肌で感じさせていただいた瞬間でした。

体育の授業では、現地の生徒と一緒に創作ダンスを体験しました。グループごとに分かれてオリジナルのダンスを考え、クラス全体の前で披露し、投票で1番のグループを決めるという内容でした。驚いたことに、宇部市の生徒は物怖じせずに、自分のアイデアを現地の生徒に伝えていました。投票の結果、宇部市の生徒が含まれるグループが代表に選ばれ、授業の最後にはそのダンスをクラス全員で踊りました。宇部市の生徒はお手本となり、堂々と踊り方を伝えることができました。クラス全員の温かい盛り上げもあり、生徒の自信につながったことと思います。私自身も一緒に踊らせていただき、現地の先生や生徒の温かい雰囲気をとても心地よく感じました。



別日にニューカッスル市長を表敬訪問した際には、メリーウェザーハイスクールの授業で何度もプレゼンテーションを披露させていただいた甲斐もあり、生徒たちは表情豊か



に宇部市の魅力や日本の学校生活について発表することができました。さらにシビックホールでの“Hiroshima Memorial Day”では、生徒が平和の大切さを訴える、心のこもったスピーチを披露し、会場にいた多くの聴衆の心を打ちました。現地の方から「彼女の優しさが感じられる本

当に素晴らしいスピーチだった。ぜひ本人に素晴らしかったと伝えてほしい。」と現地の方からお声をいただくほどでした。私たち日本人も、たとえ英語が完璧でなくても伝えたい思いは必ず相手の心に届き、その気持ちは国境を越えて共有できるのでと改めて実感しました。



こうして迎えた最終日、ホストファミリーや現地校の仲間との別れは、涙に包まれました。短い期間ではありましたが、生徒たちの英語のコミュニケーションスキルは確実に伸びました。何よりも積極的にコミュニケーションをとる主体性や、国



境を越えて想いを共有する喜びを実感でき、自信に繋がったように思います。その成長の姿を間近で見守ることができたのは、私にとっても大きな喜びでした。

また、私自身も現地校の方々から多くのことを学ばせていただきました。ほとんどのメリーウェザーハイスクールの生徒が授業中に次々と手を挙げ、自分の意見を発表する姿が印象的でした。私が以前からずっと気になっていた「なぜ海外の生徒はこれほど自分の意見を表現することが上手なのだろう。」という疑問を思い出し、日本語やフランス語の授業を担当されているアリーシャ先生（私のホストファミリー）に尋ねました。すると、実は、アリーシャ先生のクラスでも、恥ずかしさや自信の無さから自分の意見を伝えることが苦手な生徒がいたそうです。しかし、そんな時にアリーシャ先生ご自身が諦めずに、繰り返し“Have a go”（とにかくやってみよう）や“Easy going”（心配しないでリラックスして）と声をかけ、生徒の挑戦する気持ちを支えてくれたとのことでした。アリーシャ先生の温かいお人柄と生徒への情熱に触れ、私も日本の教室で「不器用でも自分の思いを伝える経験」を大切にしていきたいと強く思いました。



最後に、今回の研修にあたりご尽力くださった保護者の皆様、宇部市観光交流課、宇部市・ニューカッスル姉妹都市友好協会、ジュニアグローバル研修に関わってくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。生徒たちが今回の貴重な経験を糧としてさらに大きく成長し、その成果を地域社会や国際交流の場に還元していくことを願っております。また、宇部市とニューカッスル市との友好が今後も末永く続いていくことを心より期待しています。私自身も“Have a go”の言葉を胸に、今後の教育活動により一層励んで参ります。

◆ 資料

1 事前研修・壮行会

	内 容
第1回	アイスブレイク 研修の目標を設定しよう ワークショップ-宇部市と日本の中学生の生活を英語で紹介する①
第2回	ワークショップ-宇部市と日本の中学生の生活を英語で紹介する② -ALTの先生から英語でプレゼンテーションをするコツを学ぼう!
第3回	壮行会 派遣中の注意事項
第4回	ALTの先生と英会話(ロールプレイ)

事前研修



壮行会



2 帰国後研修・帰国報告会

	内 容
帰国後研修	研修を振り返ろう 帰国報告会の準備 ワークショップ-日本とオーストラリアの違いから多文化共生を考える



ニューカッスル市の概要



ニューカッスル市は、オーストラリアの南東部、ニューサウスウェールズ州の東海岸部中央に位置し、シドニーの北東約160kmにあるハンター地方の首都で、人口約17万6千人（2022年現在）、気候は温暖で、州内第2の産業都市です。

市の北西約100kmの背後に広がる豊かなハンター炭田は、オーストラリアで最初に開発された歴史を持っています。

かつては、市内でも採掘されていた石炭は、製鉄所や造船その他の関連工業を興し、臨海産業都市として発展してきました。

市の中心部には、大学を始め高い水準の教育、文化、体育施設があります。また、現在は美しい海岸線と豊かな自然を有する観光都市として、毎年多くの観光客が訪れています。

姉妹都市提携の背景

昭和54年（1979年）3月に定められた宇部市総合計画基本構想において、「国際社会の調和ある発展に寄与し、姉妹都市提携による総合的な交流を展開する」ことを掲げ、9カ国21都市を候補として、調査・検討を進めました。

一方、市内主要企業においては、昭和51年（1976年）以来石油にかわるエネルギーとして、石炭をオーストラリアから輸入し、経済交流が続いていました。

このような情勢の中で、昭和55年（1980年）7月、22人の市民有志による豪州親善視察団が、オーストラリアの数都市を視察調査し、帰国後、姉妹都市としてニューカッスル市が最適である旨の報告が提出されました。

その後、種々検討のうえ、同年9月、市議会の賛同を得て、ニューカッスル市との姉妹都市を決定し、11月21日にニューカッスル市において調印式を行いました。



主な交流経過

姉妹都市提携以来、教育・文化、青少年、スポーツ、経済等幅広い交流を行ってきました。この間、昭和60年（1985年）には、宇部市・ニューカッスル市姉妹都市友好協会が設立され、市民レベルの交流が活発に展開されるようになりました。

青少年交流については、昭和61年度から高校生研修派遣、平成3年度から中学生研修派遣が実施され、交流の重要な分野の一つとなっています。

文化交流については、これまで提携10周年、15周年、20周年、25周年、30周年といった節目の年に文化訪問団を派遣し、交流を深めています。



令和7年(2025年) 11月

宇部市観光スポーツ文化部 観光交流課

〒755-8601 宇部市常盤町一丁目7番1号
TEL 0836-34-8136 FAX 0836-22-6083
E-mail kokusai@city.ube.yamaguchi.jp
